

米国におけるリベラルアーツ分野の大学院教育とその専門職的機能

—歴史学を事例として—

大学経営・政策コース 福 留 東 土

Linkages of Graduate Education and Professional Jobs in Liberal Arts and Sciences in the United States:

A Case of the Field of History

Hideto FUKUDOME

In knowledge-based society, graduate education is important to cultivate talented individuals with advanced intellectual skills. However, in Japan, graduate education is currently not highly evaluated in the labor market. Particularly, academic fields in humanities and social sciences are struggling to get social and professional relevance. In this article, I will discuss on the professionalization of graduate education in liberal arts in the United States. In recent years, graduate education in liberal arts, particularly its masters' programs, tries to be more professional oriented. These trends are known as Professional Science Masters (PSM) programs in natural sciences, but in humanities and social sciences graduate education still experiences difficulties in shifting their focus to professional jobs. This article discusses on the field of history as a case study of this trend in liberal arts. The changes in the field of history are not a huge movement, but still, there are some meaningful trends to change graduate education to have more professional relevance. This trend has some implications to the future of Japanese graduate education.

目 次

- 1 はじめに
- 2 アメリカにおける大学院修士課程の歴史
- 3 修士課程教育の専門職化の動向
 - (1) 自然科学分野における修士課程の専門職化：PSM
 - (2) 人文・社会科学分野における修士課程の専門職化：PMA
- 4 アメリカ歴史学会の取組
 - (1) 修士課程に関する調査研究プロジェクト
 - (2) 「歴史家のキャリアの多様性」プロジェクト
- 5 個別大学の事例
- 6 おわりに一まとめと課題—

1 はじめに

本稿では、アメリカ合衆国の大学院教育と職業との関連について論じる。近年、アメリカでは、これまで職業との関連が明確でなかった専門分野において、大学院教育と各専門分野に関連する専門的職業との関係を捉え直す動きが起こっている。本稿では、そのうち、リベラルアーツの一分野に位置付く歴史学

を事例に取り上げる。アメリカでは、歴史学の分野は、多くの大学において自由学芸学部¹⁾の中に位置し、独立の学科(department)を編成していることが多い。研究大学においては、歴史学の大学院プログラムは博士課程を中心に運営され、授与される学位は学術研究分野の博士学位であるPh.D.であるケースがほとんどである。一方で、歴史学の修士号は、博士号に至る中間学位としての意味合いを強く帯び、博士号に対する独自の位置付け、あるいは特定の職業との関連は一般に明確なものではない。しかし、近年では、歴史を取り巻く幅広い職業に対応するための準備として歴史学の修士課程を位置付け直そうとする動きが一部で起こっている。同時に、博士課程についても、これまでのように、大学教授職の準備の課程としてだけではなく、それ以外の専門的職業に対応していく必要があるとの認識が強まっている。そうした動向の一方で、現在でも、歴史学の大学院教育の最も中核的なプログラムに位置付くのは、研究者養成のための博士課程である。また、博士学位取得後は大学教員の職を得るのが、歴史学の大学院教育を受けた者にとって最も望ましいキャリアであるとの一般的認識は、大学教員・大学院学生双方の間で大きくは変わっていない。歴史学にお

いて大学教授職以外の職業との関連を強めようとする動きは、歴史学の大学院教育を全面的に職業に対応したものに置き換えようというのではなく、上記のような認識を前提としつつ、漸進的に起こっている動向なのである。

こうしたことから、本稿が着眼するのは、研究者養成の機能を主軸に置きつつ、それと並行させる形で専門職的な要素を持った大学院教育をいかに実現しうるのかという観点である。日米を問わず、大学院教育には一般に専門職大学院（Professional Schools）として位置付き、社会における職業や特定の資格とのつながりが明確な分野が存在する。伝統的な専門職とされる法学、医学（アメリカではそれに加えて神学）がその典型に当たり、ビジネス（経営学・商学）、教育学、公共管理の分野なども職業との関連性が強く、日本での専門職大学院はほとんどがこれら分野のいずれかに該当する。一方、日本ではこれら以外の分野でも大学院の拡大が生じている。拡大の中で、それら専門職以外の分野では、研究者養成を中心的な機能として維持しつつも、増加する大学院生をいかにして幅広い職業に対応させるのが課題となっている。だが、これら分野と大学外部の職業との関連性は明確なものではなく、その結果として、これら分野の大学院教育には概して高い社会的評価が与えられていない。

しかし、大学院とは本来、高度な専門性や知的能力を獲得した人材を社会に送り出し、豊かな社会を形成することに寄与すべき存在である。そう考えた時に、特定の職業や資格との関連性が明確でない分野においても、その分野の教育がいかなる職業的有為性や社会との関連を持ちうるのかは、その分野の教育のあり方を考える上で重要な課題であるといえる。かりに、これまで職業との関連性が薄いと認識されてきた分野においても、大学院教育が目的や内容、組織の設定の仕方によってそうした要素を持ちうるのだとすれば、それは、各分野の教育が職業や社会に対する拡張性を持ちうる可能性を示すことになる。もっともそれは、あらゆる学問分野が職業との明確な関連性を持ちうるよう、現行のあり方を根本から転換させるということと同義ではない。学問を継承していく機能を中心に置くあり方を維持しつつ、それと並列させる形で、より幅広い社会的・職業的拡張性を、各専門分野がどのように持ちうるのか、という問題なのである。日本では大学院について、労働市場との関連性を見て、その実態を前提に大学院教育のあり方を批判的に捉えようとする論調が強い。一方で、労働市場のあり方は、従来の

慣習や伝統に拘束される面が強く、かつ景気動向の影響も強い。大学院教育について、大学側がコントロールしにくい労働市場の実態にとらわれるのではなく、むしろ大学院教育の内実にアプローチする視点を持つことがより重要ではないだろうか。そうした視点によって、これまでとは異なる角度から大学院教育を捉えることが可能となるのではないだろうか。

本稿の構成は以下の通りである。まず、アメリカの大学院教育について修士課程に焦点を当ててその歴史を振り返る（第2節）。次に、近年生じている大学院教育の専門職化の動向について、その概要を述べる（第3節）。これ以降は歴史学の分野に焦点を当て、まず歴史学に関する最も包括的な全米学会であるアメリカ歴史学会を取り上げ、その取組について論じる（第4節）。そして、個別の大学の事例を取り上げて機関レベルでの具体的な取組をみる（第5節）。最後に、以上の考察をまとめ、日本への示唆を示すとともに、今後の研究課題について述べる（第6節）。

2 アメリカにおける大学院修士課程の歴史²⁾

アメリカにおける大学院の成立は、1876年におけるジョンズ・ホプキンズ大学（Johns Hopkins University）の設立に求めるのが一般的である。しかしこれは、研究者養成を中心とする博士課程が、学士課程から独立した明確な実体と目的を持つ教育課程として存在し始めたことを指すのであって、修士学位や博士学位の授与自体はそれ以前から行われてきた。これまでアメリカの修士課程は、学士課程と博士課程の狭間にあって、様々に位置付けられ、また多様な機能を負わされてきた。しかし、そのような中で柔軟な構造を構築し、種々の新たな取組が展開されてきたのも米国における修士課程の特質である。

アメリカにおいて修士学位は17世紀半ばから存在していた。最初の修士学位はハーバードカレッジ（Harvard College）で授与されたとされている。つまり、修士学位の歴史は高等教育そのものの歴史とほぼ同じ長さを持つことになる。修士学位が授与され始めた当初は、カレッジ卒業後数年間の研究や学修の成果に対して授与される学位として位置付けられていた。植民地時代にはそうした位置付けが続いたが、当時は明確なカリキュラムを伴った教育課程として修士課程が存在していたわけではなく、18世紀終わり頃には、修士学位はカレッジに残った者たちにほぼ無条件に授与される学位となり、次第に有名無実なものとなっていつ

た。19世紀後半になると、各大学で教育課程としての修士課程が編成されるようになった。修士号は、課程における修了要件を満たした者に授与されるようになり、再び学修の実態を伴った学位へと変容するようになる。その後、19世紀末にかけて主要な大学に博士課程を持った研究大学院（Graduate School）が次々に設立され、それに伴い修士号は新たな機能として博士に至る中間学位としての位置づけを有し始めるようになる。研究大学院の成立・拡大の一方で、それにやや遅れて生じたのが専門職教育の拡大である。伝統的な専門職分野である医学・法学・神学では19世紀から専門職学位として博士が授与されていたが、20世紀に入る頃から、農学、工学、経営学、教員養成等で専門職の性格を持つ修士課程が開設されるようになる。とりわけ、20世紀前半には学校教育制度が広く普及し、初等・中等教育の教師を対象とする教員養成分野の修士号が大きな比重を占めるようになった。こうした中、修士は大学院で最初に与えられる学位としての位置付けを確固たるものにしてい³⁾。

20世紀後半に入ると、専門職学位としての修士の数が大きく拡大するとともに、授与される分野も多岐に渡るようになる。依然として中心を占めるのは教員養成だったが、工学、経営学、農学における学位数が増加し、公共管理や公衆衛生、社会福祉等の新興専門職分野でも修士が授与されるようになった。同時に、量的には多くないものの、博士の中間学位としての位置付けも継続し、博士候補者になれなかった者、博士号取得に至らなかった者に対する代替学位として修士が授与されるケースもあった。さらに、20世紀後半には、職業的志向は明確でないが学士卒業後も継続して学修を望む者や生涯学習の受け皿として修士課程が機能するようになった。こうして、この時期に至ると修士課程は高等教育の大衆化、民主化、高度化等の諸動向に伴う多様な機能を抱え込むようになる。そうした中、入学水準、学生層、修学年限、カリキュラム、修了要件等が機関や分野によってきわめて多様な状況が生じ、修士の質が問われるようになった。例えば、拡大の中で次第に修了要件として修士論文を外す課程が多くなった。1960年前後からは、全米的な高等教育拡大の様相の中で、修士課程でもさらなる拡大と多様化が進行し、修士課程の質に関する問題はこの後も継続して存在していく。だが、そうした現象は同時に、社会で生起する様々な需要に機動的に感応しうる柔軟な構造を生み出すことにもなった。特に1990年代前後から、産業界や地域社会のニーズに対応しつつ、職業的

キャリアに繋がる課程を構築する取組が強まるようになる。博士課程ほど長期の就学を必要とせず、かつ大学にとって重い財政負担なく多くの学生を呼び込める修士課程は、大学にとって経営戦略上の重要性を高めるようになる。修士学位の数は着実に増加を続け、今後もさらなる拡大が見込まれている。

3 修士課程教育の専門職化の動向

以上のような過程を経て、拡大と多様化を遂げてきたアメリカの修士課程教育であるが、社会や職業との繋がりという観点からみると、修士課程は専門分野ごとにその特徴をいくつかに分類することが可能である。それらはほぼ以下の3つの分類にまとめられる⁴⁾。ひとつは、早い段階から専門職教育として位置付けられてきた分野であり、ここには修士課程の専門職教育の主要な領域である教育やビジネス、公共管理が当てはまる。上で見てきたように、これらは20世紀前半から中盤に掛けて専門職教育としての位置付けを高め、20世紀後半以来拡大を遂げてきた。二つ目は、自然科学、生命科学、工学など、現在ではSTEM (Science, Technology, Engineering, and Mathematics) と総称される分野である。そして、三つ目は、上記専門職分野を除いた人文・社会科学や学際領域に位置付く分野である。これらのうち、後二者は、工学や一部自然科学分野を除いて専門職的要素はこれまでそれほど強くなかったが、以下でみるように、近年ではこれら、いわゆるリベラルアーツに分類される分野において大学院教育と職業との関連を高める動きが強まっている。

(1) 自然科学分野における修士課程の専門職化：PSM

上記STEMを中心とする自然科学の分野では、PSM (Professional Science Master, 専門職科学修士) と呼ばれる動きが広がっている。これまで比較的職業との繋がりが強くなかった分野において、修士課程を博士の準備段階としてのみ位置付けるのではなく、修士段階の教育を通して幅広い専門職に就く者の能力を高めようとする動きである⁵⁾。PSMは全米大学院協会 (Council of Graduate Schools; CGS) による主要プロジェクトのひとつに位置づけられている。また、NPSMA (National Professional Science Master's Association) と呼ばれる団体がこの動きを全米的に推進する母体となっており、拠点となる大学 (Keck Graduate Institute, ケック大学院大学) が存在している。同大学に置かれるPSMの全米事務局では、PSMプログラムとし

ての認定を行うための基準等が整備されている。現在（2015年9月）、全米の159大学で342プログラムがPSMとしての認定を受けており、修士課程を巡る近年の大きな動向のひとつとなっている。PSMには幅広い分野が含まれるが、プログラム数が多いのは、環境学、生命工学、コンピュータ科学・情報科学、生命情報学、応用物理学、応用化学、金融数学、法科学といった分野である⁶⁾。

PSMの各プログラムで重視されるのは、科学に関する諸分野の教育に加え、マネジメント、チームワーク、リーダーシップなどの汎用的なスキルや学際的能力の涵養である。これら能力は、従来における科学の専門教育に対して、PSMのプログラムに特有の付加的要素であり、“Science Plus”と呼ばれる。すなわち、専門的能力を前提に置きつつ、それを幅広く応用するための能力が重視されており、こうした広さと深さを合わせ持った能力のあり方は“T-shaped”と表現される。また、インターンシップの実施や課題解決プロジェクトへの参画などを通じた実践的教育が強調されており、各プログラムが産業界との連携関係を構築することが求められている。各プログラムは、産業界や地域の雇用者などから構成される助言委員会（advisory board）を編成し、プログラムのあり方について、学内者と学外者とが定期的な議論を行うことが強く推奨されている⁷⁾。

(2) 人文・社会科学分野における修士課程の専門職化：PMA

一方、人文・社会科学、および学際分野では、PSMと同趣旨の動きが、PMA（Professional Master's programs in humanities and social sciences、またはProfessional Master of Arts）として広がっている。CGSでは、2002年からフォード財団の支援を受けて推進プロジェクトが進められてきた。CGSではPMAに当たる分野として、公共管理、経済学、言語学、政治学、地理学、人類学、心理学、歴史学、社会学を挙げている⁸⁾。さらに学際分野として、アメリカ研究、地域研究、ジェンダー学等が含まれる場合もある⁹⁾。これら分野では、教育内容や外部諸機関との連携、学生のキャリア支援などの面で専門職化が徐々に進行している。しかし、上記のPSMと比較した場合、大きな広がりを持つ動きとはなっておらず、このことはCGSでも課題として認識されている¹⁰⁾。その要因のひとつとして、PSMと比べた場合、社会的需要と専門分野との関係が鮮明でなく、また院卒者に対応する労働市

場の規模も大きくないため、PSMにみられるような独立の専門職プログラムを設置することが難しいことがある。また、こうした事情とも関係して、これら分野では学内外において十分な資金を獲得することが困難な場合が多い。これらの結果として、PMAはPSMのように専門職学位の通称としては定着していない。CGSが行った人文・社会科学系の学士卒者に対する調査によると、これら分野で、大学で学んだ知識が職業と関連する割合は他分野に比べて有意に低い。しかし他方で、産業界や政府機関による人文・社会科学分野の大学院卒者の需要が他分野より低いわけでは必ずしもない。むしろ、これまで以上にそうした人材の活躍が多方面で必要であるとの声は少なくない。そのため、CGSでは、大学院における社会的有意性や職業との関連を意識した教育が求められるとしている¹¹⁾。

変化の兆しは現れている。CGSでは、PMAの動向調査として、修士学位授与数の多い68機関を全米から選定し、言語学、歴史学、社会学、地理学、人類学、政治学、経済学、心理学、コミュニケーション、公共管理の10分野に渡る385のプログラムに関する調査を実施している。2002年と2007年の2時点間における教育プログラムの性格の変化に関する調査であり、その指標とされたのは次の10の観点である。①スキル重視の科目（マーケティング、マネジメント、統計学など）、および学際科目の設置、②ノンアカデミックなライティング科目の設置など、ライティングやコミュニケーション能力の重視、③（修士論文の代替、あるいは追加としての）修了時プロジェクト：顧客向けの研究プロジェクト、チームでの研究プロジェクト、④外部者（産業界、政府、非営利組織）による助言委員会の設置、⑤（産業界、政府、他組織での）インターンシップの必修化、⑥実務経験を持つ教員が最低1名いること、⑦（インターンシップの必修化に加えて）職業スキルを高める外部活動への学生の参加機会の保証、⑧（PhDではなく）修士修了者向けの仕事・キャリアの提示／就業支援、⑨修了者調査やキャリアの追跡の実施、⑩専門職ア krediteーションや資格付与を通じた評価と質保証。これら指標について、上記10分野のすべてにおいて、5年間で大きな進展がみられた。ただし、そこでは分野間の格差も大きい。例えば、公共管理や経済学、コミュニケーションでは多くのプログラムで上記指標が満たされているのに対し、言語学ではこれらへの対応がそれほど進んでいない。他の分野はこれら両極の中間に位置している。こうした調査結果を踏まえ、CGSの報告書は、人文・社

会科学の分野は、古典型 (classical)、応用型 (applied)、専門職型 (professional) の3つに類型化されるのが現状であると結論付けている¹²⁾。

4 アメリカ歴史学会の取組

前節でみた通り、人文・社会科学系のPMAは、全体としてそれほど顕在化した動向とはなっていない。だが、人文・社会科学で大学院改革の推進力となっているのは、全米の大学団体以上に各専門分野に立脚する学会組織である¹³⁾。そこで、本節では、アメリカにおける歴史学の最も包括的な学会であるアメリカ歴史学会 (American Historical Association, AHA) を取り上げる。歴史学は、上記CGSの調査によれば、人文・社会科学の中でも専門職化の動向はやや低調な部類に属する。しかし、後述するように、AHAでは、大学院教育の専門職への対応に向けたプロジェクトが展開されており、また歴史学では同分野に対応する専門職が比較的可視化しうる状況にある。

(1) 修士課程に関する調査研究プロジェクト

AHAでは、1960年代から修士課程の位置付けや教育の質の多様性が指摘され、議論が行われてきたが、修士課程に焦点付けた本格的取組が行われ始めたのは近年になってからである。2001年に行われた各大学の歴史学プログラムに対する調査では、大学院教育の様々な課題の一つとして、修士課程の機能や将来の方向性、修了者のキャリアの問題が提起された。また、大学院が今後、歴史に関わる様々な外部団体と連携する必要性が指摘された。こうした流れを受けて、2003年からフォード財団の支援により3年に渡るプロジェクトとして学会内部に修士学位委員会 (Committee on the Master's Degree) が設置された。修士在学学生に対して修了後の進路希望調査が実施され、修士修了後に想定される職業がきわめて多岐に渡る状況が明らかとなった。それを踏まえ、修士修了後に想定される具体的進路として大きく以下の4つが設定された。①博士課程への進学、②コミュニティカレッジの教員、③中等教育教員、そして④公共部門における歴史専門職 (public history: 公共部門における文書館、博物館、歴史館等の専門職員や連邦政府機関の専門職員等)。こうした進路の多様性を前提に、委員会報告書では各大学がこれらのいずれかに重点を置いたカリキュラムを構築する必要性と可能性が論じられている。

修士課程修了後の進路に関するプロジェクトと並行

して試みられたのが、修士課程における教育を通して得られる能力の枠組みに関する検討である。修士課程の機能が多様でありうる一方で、修了後の進路に関わらず、歴史を専攻する者として最低限求められる共通の知識や能力、態度を明らかにしようとする試みである。この取組の結果、修士課程における能力枠組みの試案として提示されたのが以下の5つである。①基盤としての歴史的知識、②研究能力、プレゼンテーション能力、③歴史教育に関する基礎的素養、④歴史家としての専門職アイデンティティ、⑤歴史家としての思考法の修得。もっとも、この枠組みは大学院における教育の現状を踏まえて抽出されたものではなく、歴史家として求められる能力に関する関係者間の議論の結果として導き出されたものである。その意味で、修士課程教育の将来的なあり方を検討する素材としての位置付けを持っていた¹⁴⁾。

その後、2012年から始まり現在も継続されている歴史学のチューニング・プロジェクト (Tuning the History Discipline in the United States) では、歴史学を専攻する者が獲得すべきスキルや能力、態度を可視化しようとする取組が行われている。これは、現在のところ学士課程における歴史学専攻を中心的な対象とするものであるが、歴史学を学ぶことによってどのような能力が得られる (べき) かについての参照軸を構築しようとするものである¹⁵⁾。卒業・修了後のキャリアにかかわらず、歴史学の教育プログラムがいかなる能力を育成しうるのかを可視化する試みは、歴史学を学んだ人材が、どのように社会において活躍しうるのかを示す上でも有意義な取組であるといえるだろう。

(2) 「歴史家のキャリアの多様性」プロジェクト

現在、AHAではメロン財団による財政支援を受けて「歴史家のキャリアの多様性」 (Career Diversity for Historians) と呼ばれるイニシアティブが展開されている。このプロジェクトは、修士課程よりも博士課程の学生が主な対象とされているが、歴史を学んだ人々が、大学教員のキャリア以外に、歴史の専門的教育を通して仕事の質を高めうる職業が社会に広く存在するという点を基本的考え方に置いており、その点で、上でみた修士課程に関する議論にも通じる内容となっている¹⁶⁾。大学教授職以外の多様なキャリアにおいても歴史的素養を活かしうることを学生に理解させ、そうした職業に適応するための能力を培うプログラムの構築を目的とするイニシアティブである。AHAではプロジェクトの取組として、①学内外でのインターン

シップの機会の提供, ②キャリアサービスセンターとの協働プロジェクト, ③歴史学の大学院生のためのワークショップ等の開催, ④学生の資源としての修了生ネットワークの構築, ⑤将来のキャリアパスに関する大学院生による会合の開催, という5点を挙げている。プロジェクトでは, 大学外の職業で成功するための能力に関する検討が行われており, それがアカデミックな仕事を目指す場合とどのような共通性と差異を持つのかを検討されている。また, 大学と歴史関係諸機関との関係強化も目的のひとつとされている。

2012年に始まった第一フェーズでは, 大学外の職業で成功するための能力に関する検討が行われ, その結果, コミュニケーション, 協働, 数量的分析能力, 自身の知的能力に対する自信という4つの能力・態度が提示された。そして同時に, 検討の結果, それらの能力・態度は優れた大学教員となるために必要な資質と矛盾しないことも明らかにされた。続いて, 2014年から始まり, 現在も続いている第二フェーズでは, 大学と歴史関係諸機関, 政府機関, 教育機関などとの連携を深めることが目的とされ, 大学内外において歴史に関わる人々の相互理解を促進し, 学生への情報提供を強化することが目指されている¹⁷⁾。

また, 上記プロジェクトを核としつつ, AHAでは学会誌やウェブサイト, 年次大会などを通して, 歴史に関わる様々なキャリアに関する情報提供を行っており, 歴史に関わるキャリアに対する認識の転換を図ろうと努めている。

5 個別大学の事例¹⁸⁾

全米レベルの学会における取組に対して, 本節では, 歴史学の大学院プログラムにおける修士課程の現状をみていく。歴史学においては, 修士課程と博士課程の制度的・機能的関係が機関によって異なる。そのため, ここではまず, 複数の事例を取り上げながら修士課程と博士課程の関係を整理する。筆者がこれまで訪問調査を行った大学およびその際に情報を得た大学を取り上げ, そこに, 上記AHAによるキャリアの多様性プロジェクトのパイロットプログラムとなっている4大学(シカゴ大学, コロンビア大学, UCLA, ニューメキシコ大学)を加える。なお, 本稿では研究大学のみを対象とする。私立大学としてハーバード大学, ジョージワシントン大学, スタンフォード大学, イェール大学の4大学, 州立大学として, カリフォルニア大学バークレー校, ジョージメイソン大学, メ

リーランド大学ボルチモアカウンティ校, メリーランド大学カレッジパーク校, マサチューセッツ大学ボストン校, ペンシルバニア州立大学, サウスカロライナ大学の7大学, 合計15大学(私立6, 州立9)について, 訪問調査および各機関の公式ウェブサイトを通じた調査を行った。アメリカでは, 研究大学といってもいくつかの定義が存在するため, 上記15大学を研究大学としての特質に着目して分類を行った。一つの基準はカーネギー大学分類(Carnegie Classification)に基づく分類である¹⁹⁾。次に, 最も優れた研究大学のみが加盟するアメリカ研究大学協会(Association of American Universities; AAU)への加盟の有無である。本稿の対象大学についてこれらをまとめたのが表1である。

まず, これら大学の歴史学科が修士課程を提供しているか否かであるが, 修士課程を持っていないのはハーバード, UCLA, バークレー, ペンシルバニア州立の4大学である。コロンビアとシカゴでは歴史学科単独での修士課程はないが, 隣接学科との共同プログラムやテーマを特定した海外大学との共同学位があり, 一部ではあるが学際化の取組が進んでいることが分かる。スタンフォードでは, 修士課程が置かれているが, 同課程への入学者の多くは学士課程の歴史専攻との一貫プログラムとして入学している。以上の7大学では, 博士課程から明確に独立した形での修士課程は有していない。だが, これら大学ではいずれも, 博士課程の途上において, PhDの前段階としてMA(Master of Arts)を取得することは可能となっている。これらを除く8大学では, 独立の修士課程プログラムを運営している。

AAU加盟大学のうちで独立の修士課程を有しているのは, イェールとメリーランド・カレッジパークのみであり, 最も研究活動の盛んな大学では, 歴史学においてもやはり博士課程が非常に重視されていることが分かる。イェールでは, ウェブサイト上に修士修了後のキャリアに関する明確な記述はない。これに対して, メリーランド・カレッジパークでは修士課程のプログラムが重視されている。修士課程には歴史学のMAプログラムに加え, 図書館学とのデュアルディグリー・プログラム(History and Library Science Master of Arts (HiLS) Dual-Degree Program)が置かれており, 歴史学科と情報学部との協働でプログラムが運営され, 図書館, 文書館, 博物館などでのキャリアに有用な能力を形成することが図られている。さらに, 歴史保存(Historic Preservation), および博物館学・資料文化(Museum Scholarship & Material Culture)という二つ

表1 事例対象大学の概要

カーネギー大学分類	きわめて優れた研究大学		優れた研究大学
AAU加盟状況	AAU加盟大学	AAU非加盟大学	
大学数	9 大学	3 大学	3 大学
博士課程のみ／独立修士課程なし	<ul style="list-style-type: none"> ・シカゴ大学 ・コロンビア大学 ・ハーバード大学 ・スタンフォード大学 ・カリフォルニア大学バークレー校 ・UCLA ・ペンシルバニア州立大学 		
博士課程＋修士課程	<ul style="list-style-type: none"> ・イエール大学 ・メリーランド大学カレッジパーク校 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョージワシントン大学 ・ニューメキシコ大学 ・サウスカロライナ大学 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョージメイソン大学
修士課程のみ			<ul style="list-style-type: none"> ・メリーランド大学ボルチモアカウンティ校 ・マサチューセツ大学ボストン校

の修了証プログラムを設定しており、大学院在籍生がこれらプログラムでの修了証の獲得を通じて、歴史に関わる専門的能力を修得できるよう配慮がなされている²⁰⁾。

AAU非加盟の6大学は、いずれも独立の修士課程を運営している。それらは大きく2つのタイプに分かれる。ひとつは単独の歴史学修士課程を持っている大学である（ジョージワシントン、ニューメキシコ）。これに対して、残る4大学は、修士課程を複数設定し、あるいは修士課程内に複数の専攻分野を設定している。4大学のプログラムは以下のである。ジョージメイソンでは、修士課程に4つの専攻（Concentration）が設けられている。博士課程へ進学する専攻（Predoctoral History）、歴史学を用いた職業準備のための専攻（Applied History）、歴史的素養を深める専攻（Enrichment）、そして歴史教育専攻（Teaching）である。マサチューセツ・ボストンでは、専攻（track）が3つの系列に分かれており、歴史、パブリック・ヒストリー（Public History）、文書館（Archives）の各専攻が置かれている。サウスカロライナとメリーランド・ボルティモアカウンティでは、歴史学修士課程のオプションとして、パブリック・ヒストリーを専攻することができるようになっている。また、サウスカロライナでは、図書館学・情報科学の修士課程とのジョイント学位プログラムを有し

ており、博物館管理（Museum Management）、および歴史考古学・文化資料管理（Historical Archaeology & Cultural Resource Management）の修了証プログラムが併設されている。

これら6大学ではいずれも、ウェブサイト上で、修士修了後のキャリアに関する具体的記述があり、大学により若干の違いはあるものの、公共部門（歴史協会、文書館、博物館、図書館）、政府機関、そして学校教員が主だった職業領域として挙げられている。また、これら職業領域でのインターンシップが修了要件として課されているケースが少なからずみられ、こうした点からも職業との繋がりが重視されていることが窺われる。

以上のように、研究大学においては、AAU非加盟の大学を中心に、歴史学の修士課程は大学外の職業を意識して設定されている場合が多くみられ、しかも、具体的な職業領域に対応する専門プログラムを準備している大学が少なくないことが分かる。今回行った調査は研究大学のみを対象とするものであったが、研究大学以外の修士課程を中心とする大学にまで視野を広げれば、さらに職業との関連を意識したプログラムを持つ大学が多く見出される可能性がある。今回の調査では事例の選定も体系立ったものではない。全米的な動向を抑える上ではより精緻かつ慎重な検討が要求されるが、今回の検討を通して、少なくとも、歴史学の

分野において大学外の幅広い専門的職業に対応しようとする試みがある程度の広がりを持って存在している可能性が示されたといえるだろう。

6 おわりに—まとめと課題—

以上、本稿では、アメリカの大学院教育が職業との関連を強めつつある近年の動向を、修士課程を主な対象として検討してきた。PSMに象徴されるように、自然科学の分野では専門職化がすでに大きな流れとして存在し始めている状況が把握できた。その一方で、人文・社会科学の分野では、職業との関連が徐々に広がりつつあるものの、依然としてその繋がりは明確なものとなっておらず、各分野の社会的・職業的関連性をいかに見出し、高めていくのが課題となっている状況が明らかとなった。この点では、アメリカでも、日本でしばしば指摘される課題と同様の課題を抱えているといえる。だが、そうした繋がりが広く可視化されているかどうかをひとまず置いて、各専門分野に踏み込んでその内部で生じている現象をより具体的にみると、学会や各大学など、複数のレベルで、職業との対応を模索しようとする各種の取組が進行しつつあり、かつそれらがかなり具体的な形態となって現れつつあることがみえてきた。一見すると職業との繋がりが弱いと想定される分野においてこうした動きが広がりつつあることは、日本の大学院教育の今後のあり方を考えていく上で参考となるであろう。

最後に本稿の限界と課題を指摘しておく。本稿は、学会や大学における各種取組の状況を広く俯瞰したものであり、各プロジェクトの実質的内容や教育課程のカリキュラムにまで踏み込んで詳細な検討を加えることはできなかった。今後はそうした教育や知識・能力の内実にアプローチし、より踏み込んだ考察を加える必要がある。また、検討対象とした事例の選定も体系立った形で行われた訳ではなく、本稿で明らかにした内容がどこまで広く該当するものなのかについてはさらなる検討を要する。また、本稿では歴史学を事例として取り上げたが、こうした動向がどこまで他の分野についても該当するのか、あるいは、各専門分野の内部で職業との関連がどのような文脈を持ち、どのような展開を見せているのかなどについて明らかにしていくことが必要である。こうした観点を踏まえ、今後、本稿で明らかにした内容に関する検討をさらに深めていきたい。

注

- 1) “College of Arts and Sciences,” “College of Liberal Arts,” “College of Letters and Science” など、大学により正式名称は異なる。また、大学院段階を対象とする本稿では、邦語の「学部」の訳語は厳密には当てはまらず、研究科（Graduate School）の表記がより厳密であるが、煩雑になるのを避けるため、以下では日本での通称にない、部局レベルの組織はすべて「学部」と表記する。
- 2) 本節の内容は主に以下を参考としている。Storr, R. J., *The Beginning of Graduate Education in America*, Chicago: University of Chicago Press, 1953; Storr, R. J., *The Beginning of the Future: A Historical Approach to Graduate Education in the Arts and Sciences*, New York: McGraw-Hill, 1973; Conrad, C. F., Haworth, J. G. & Millar, S. B., *A Silent Success: Master's Education in the United States*, Baltimore: The Johns Hopkins University Press, 1993; Brubacher, J. S., & Rudy, W., *Higher Education in Transition: A History of American Colleges and Universities* (4th Edition), Transaction Publishers, 1997.
- 3) アメリカでは、研究者養成の大学院課程では、修士課程を経ずに博士（Ph.D.）課程に入学するのが一般的である。ただし、修士課程に入学しない場合でも、博士号を得る途上で修士号を授与することは多くの分野で広く行われている。修士号が与えられるタイミングとしては、コースワークを終了し、総合試験を通過し、博士候補者となる段階で行われることが多い。大学によって、博士課程とは別建ての独立の修士課程が設けられている場合がある。一方、これとは別に、専門職教育分野では、博士課程とは独立した修士課程の専門職プログラムが数多く存在する。アメリカの修士課程と博士課程の関係については次を参照。福留東土「大学院教育と研究者養成—日米比較の視点から—」『名古屋高等教育研究』第12号, 237-256頁。
- 4) Glazer-Raymo, J., *Professionalizing Graduate Education: The Master's Degree in the Marketplace*, ASHE Higher Education Report, 2005.
- 5) 修士号が最終学位となるため、しばしば“terminal master”と呼ばれる。
- 6) Professional Science Master's ウェブサイト。
<http://www.sciencemasters.com/> <2015年9月25日アクセス>
- 7) 同上、および、NPSMA ウェブサイト
<http://www.npsma.org/> <2015年9月25日アクセス>
- 8) CGS ウェブサイト “PMA Initiative”
<http://www.cgsnet.org/pma-initiative> <2015年6月27日アクセス>
- 9) Glazer-Raymo, *op.cit.*
- 10) 2015年2月、CGSのJeff Allum氏（Director, Research and Policy Analysis）へのヒアリングに基づく。
- 11) Francis, S. K., Goodwin, L. V. & Lynch, C., *Professional Science Master's: A CGS Guide to Establishing Programs*, Washington DC: Council of Graduate Schools, 2011.
- 12) *Ibid.*
- 13) 前出のJeff Allum氏へのヒアリングに基づく。
- 14) Katz, P. M., *Retrieving the Master's Degree from the Dustbin of History: A Report to the Members of the American Historical Association*, Washington DC: AHA Committee on the Master's Degree in History, 2005.

- 15) AHAウェブサイト “AHA History Tuning Project: History Discipline Core” <https://www.historians.org/teaching-and-learning/current-projects/tuning/history-discipline-core> <2015年9月30日アクセス>
- 16) AHAウェブサイト “Career Diversity for Historians” <https://www.historians.org/jobs-and-professional-development/career-diversity-for-historians> <2015年9月26日アクセス>
- 17) 2015年9月, AHAのJim Grossman氏 (Executive Director) およびEmily Swafford氏 (Programs Manager) へのヒアリングに基づく。
- 18) 本節の内容は特記しない場合, 各大学の公式ウェブサイト掲載の情報に基づく。
- 19) カーネギー大学分類は2014年よりインディアナ大学ブルーミントン校中等後教育研究センターに移管されている。2015年版では分類方法が若干改訂され, 研究大学の分類も新たなものとなっているが, 本稿の記述は2010年版の分類に基づいている。カーネギー分類は2005年に大幅な改訂が行われている。その詳細は以下を参照。福留東土「米国を通してみる大学の多様性ーカーネギー大学分類を手掛かりとしてー」広島大学高等教育研究開発センター編『高等教育のユニバーサル化と大学の多様化』高等教育研究叢書113, 2011年4月, 45-57頁。
- 20) 2015年9月, メリーランド大学カレッジパーク校歴史学科教授Marsha L. Rozenblit氏 (Director of Graduate Studies) へのヒアリングに基づく。